

## Action 1

### 大事な情報、伝える工夫



- ▶ 両大会をモデルに、今後のスポーツ大会の情報保障がレベルアップ
- ▶ 誰もがより簡単に、必要な情報を受け取れる社会づくりが進捗

そのための  
アクション

- サイネージなどを活用した誰もが分かりやすい会場案内
- 都立スポーツ施設のアクセシビリティ設備(※1)を整備
- 障害のある人の外出などをサポートする  
スマートフォンアプリの実証

など

※1 集団補聴設備や光警報装置など

## Action 2

### デジタルで拓く東京の未来



- ▶ ユニバーサルコミュニケーション (UC) 技術の有用性や将来性が社会に広がり、企業の技術開発などが活発化

そのための  
アクション

- 全ての競技会場でUC技術を活用  
(多言語同時翻訳機能付きのディスプレイやタブレットなど)
- 都庁や駅の窓口などにUC機器を導入
- 「みるカフェ」(※2)の実施や展示会への出展

など

※2 デジタル技術で言語を見える化したカフェ